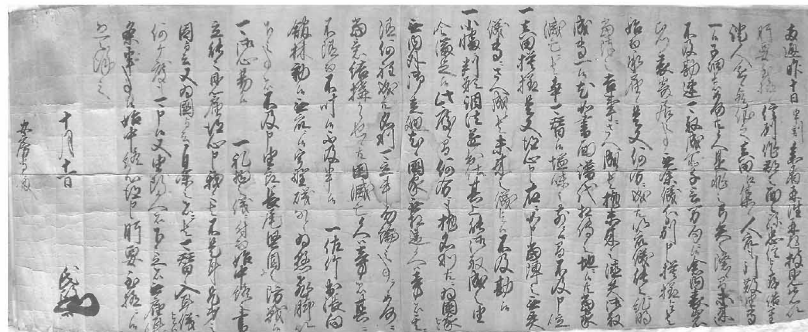


鉢形城歴史館  
平成28年春季企画展

# 上州合戦 北条と真田

**鉢形** 形城主北条氏邦は、上州（現群馬県）との関わり合いが極めて深くあります。鉢形城入城当初の越相同盟締結（武田氏に対抗するための越後上杉氏と北条氏との軍事同盟）にあたって氏邦は、沼田在城衆らとの交渉に奔走していました。越相同盟が破たんした後、小田原北条氏の四代当主氏政は、氏邦を上州方面攻略の担当としました。

その後、沼田城をめぐる真田氏と争い、最終的には猪俣邦憲の名胡桃城奪取事件により後北条氏の滅亡へとつながっていきます。平成28年大河ドラマ「真田丸」の主人公真田信繁（幸村）の父である昌幸と氏邦は、北州の争奪戦をくりひろげました。本展示会は、北条氏の資料とともに真田氏所縁の資料を展示します。



北条氏政書状（金室家所蔵文書）

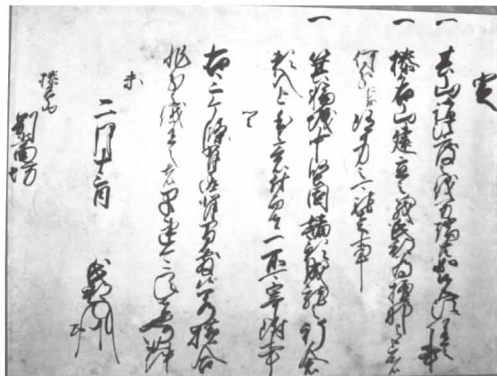
- 展示資料
- 黒漆塗二枚仏胴（五段昇梯子紋付／真田家中） 個人蔵
  - 六文銭紋付鎧櫃
  - 黒漆塗二枚仏胴（三つ鱗紋付／小田原北条家中）
  - 差物（真田信幸家中） 県立歴史と民俗の博物館蔵
  - 北条氏邦定書 榛名神社蔵
  - 真田昌幸禁制 榛名神社蔵
  - 北条氏邦書状（赤見文書） 県立文書館蔵
  - 北条氏政書状（根岸家文書） 県立文書館蔵
- ※他約20点



黒漆塗二枚仏胴（三つ鱗紋付／小田原北条家中）



黒漆塗二枚仏胴（五段昇梯子紋付／真田家中）



北条氏邦定書（群馬県指定文化財榛名神社文書）

イベント情報  
企画展歴史講座

- 3月26日(土) 「北条氏邦の沼田進出をめぐる」 講師／梅沢太夫氏（元埼玉県立歴史資料館長）
- 3月27日(日) 「北条氏邦と真田昌幸」 講師／浅倉直美氏（埼玉県文化財保護審議会委員）

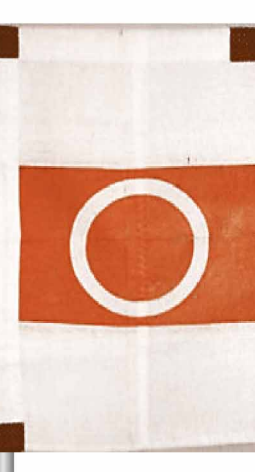
時間／午後1時30分～3時30分  
場所／鉢形城歴史館講座室  
対象／高校生以上  
定員／40人  
費用／無料  
申し込み／鉢形城歴史館へ電話でお申し込みください。

期間 3月19日(土)～5月8日(日)  
開館時間 午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）  
入館料 一般／200円、高校生・大学生／100円（20名以上半額）  
中学生以下、70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方は無料  
休館日 3月22日(火)、28日(月)、4月4日(月)、11日(月)、18日(月)、25日(月)  
問い合わせ 鉢形城歴史館（☎5860315）へ。

⑤その後の氏邦と昌幸  
氏邦は前田利家預かりとなり、のちに千俵（五百石）取りの家臣待遇となりましたが、慶長2年（1597）金沢城内で死去したといわれています。北条氏滅亡後、豊臣秀吉の命により北条領国は徳川家康に与えられ、上野沼田領は真田信幸に与えられ、家康の与力となりました。昌幸は秀吉配下

④鉢形城開城  
真田昌幸は、子である信幸・信繁（幸村）とともに小田原合戦のため出陣しました。信繁はこれが初陣ともいわれています。真田氏は北国軍の先鋒隊として前田利家・上杉景勝らの軍勢とともに東山道を進み、5月下旬には5万の大軍で鉢形城を包囲し、昌幸は奇居に陣を敷いたといわれています。6月14日城兵の助命を条件として鉢形城は開城し、氏邦は出家し前田利家の預かりとなりました。その後昌幸は忍城攻めに転戦し、小田原城落城後は秀吉らとともに、奥州仕置として東北へ従軍して戦功をあげました。

の豊臣秀吉に従属しました。天正17年7月、沼田の帰属については秀吉が裁定を下し、沼田城を含む沼田領の三分の二が北条領、名胡桃城を含む残り三分の一が真田領というものでした。北条氏はこの裁定に不満であったため、同年11月、氏邦の家臣である猪俣邦憲が名胡桃城を奪取しました。沼田裁定後速やかに上洛しなかつた氏政に対し、秀吉はすでに出陣の意図があつたといわれています。秀吉は12月13日に出陣を決め、翌年2月には侵攻を開始しました。



旗差物（丸輪／真田家中）

②武田氏滅亡と天正壬午の乱  
天正10年（1582）2月、織田信長が武田氏を滅ぼすと、北条氏も上野方面に勢力を伸ばすようになった。このように、沼田地域をめぐる北条氏邦と真田昌幸との抗争は、「御館の乱」から始まったといえます。甲越同盟が成立すると、武田勝頼は家臣の真田昌幸に対し沼田城の攻略を命じました。沼田城代であった用土新左衛門尉は、藤田一族である用土氏の出自で、氏邦の家臣でした。真田昌幸は調略により、新左衛門尉の武田方への寝返りを成功させました。そのときから新左衛門尉は名を改め藤田信吉と名乗りました。

①御館の乱と甲越同盟  
天正6年（1578）3月に上杉謙信が突如死去すると、後継者をめぐり景虎（越相同盟の折に北条家から養子として出された三郎）と景勝（上田長尾氏の出で謙信の養子）が争った「御館の乱」が勃発しました。氏政は、景虎の後援として鉢形城主氏邦を越後に派遣し、同盟者である甲斐の武田勝頼にも出陣を要請しました。北条氏は「御館の乱」の混乱に乗じて景勝方の上野沼田城を攻略しましたが、突如景勝と勝頼が和睦したため（甲越同盟）、氏邦の軍勢は武田軍に牽制され、関東へ引かざるを得ませんでした。このことで景虎の敗北は決定的となり、「御館の乱」は景勝の勝利で終結しました。甲越同盟が成立すると、武田勝頼は家臣の真田昌幸に対し沼田城の攻略を命じました。沼田城代であった用土新左衛門尉は、藤田一族である用土氏の出自で、氏邦の家臣でした。真田昌幸は調略により、新左衛門尉の武田方への寝返りを成功させました。そのときから新左衛門尉は名を改め藤田信吉と名乗りました。



秩父孫次郎の復元甲冑  
鉢形城歴史館に寄贈  
1月21日に、小田原手作り甲冑研究保存会の所澤貞雄氏から、関東五枚胴具足（復元品）を鉢形城歴史館に寄贈いただきました。この具足は、鉢形城主北条氏邦の重臣で秩父衆を率いていた秩父孫次郎重臣所用と伝わる具足で、甲冑研究家である伊澤昭二氏の監修のもと、5年以上の歳月を経て完成したものです。実戦向きの甲冑で、この具足の流れは伊達政宗所用と伝わる黒漆塗紺糸威五枚胴具足の原型ともいわれています。

の大名として本拠地信濃國小県郡の所領が安堵されました。その後の昌幸については、特に小山評定中の信幸との決別となる「犬伏の別れ」や関ヶ原の合戦に参陣する徳川秀忠の軍勢を上田城で足止めした上田合戦（第2次）などが、メディアに取り上げられる機会が多く、周知のことと思われがちです。関ヶ原の合戦で石田三成方が敗北したことにより、昌幸・信繁父子は九度山に蟄居となり、昌幸はそこで死を迎えたのでした。氏邦と昌幸は、同じ受領名である「安房守」を名乗り、敵方からは「比興者」と評された二人であり、奇しくも両者は敗者となり、流刑地先で死を迎えたのでした。

③沼田をめぐる争い  
天正11年2月には榛名神社に対し、「箕輪城中堅固 所願成就」を祈念し（榛名神社文書）、このころには氏邦は箕輪城（高崎市）を拠点として上州の経営に乗り出していたことが分かります。そして北条氏は家康に先の天正壬午の乱における協定実現を迫り、昌幸は家康との関係が悪化したため、羽柴後

長が武田氏を滅亡させると、真田昌幸は一族を守るために困難な取り合いを迫られることとなりました。本能寺の変で信長が憤死すると、旧武田領をめぐる北条・上杉・徳川の抗争である「天正壬午の乱」が始まります。大軍を擁する北条方の優位状況を打開すべく、徳川家康は昌幸を調略し、9月には味方につけることに成功しました。この昌幸の動きについて、氏邦は氏政に対して知らせていたようで、10月の書状（金室家所蔵文書）では沼田・岩櫃・奇居（渋川市の説もあり）への戦略を検討していたようです。昌幸の寝返りにより、小田原北条氏の五代当主氏直はやむなく家康と和睦しました。この和睦は、北条氏が甲斐・信濃を放棄し、上野の支配権を徳川氏に認めさせるものでした。しかし、昌幸にとっては自力で獲得した領地を手放すことはできず、これがのちに徳川・北条両氏と対立する原因となり、小田原合戦への端緒となったのです。